



No.160 2022. 12

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

大師ご生誕1250年から生死を考える

2023年は弘法大師空海ご生誕から1250年という節目の年で、真言宗各派では様々な企画が準備されています。

大師は774年6月15日、現在の香川県で誕生し、幼名を真魚（まお）といいました（まおちゃんなんてかわいい名前ですね）。

成長したお大師さまは多くの功績を残し、晩年「私は仏の世界に赴かずこの世にとどまり一切衆生の救済を続ける」と誓いをたてます。そして61歳で瞑想に入り、現在も高野山の奥の院から私たちに様々な恵みをもたらしていると考えられています。

つまりお大師さまは今も生きてしていると信じられているのです（奥の院では現在も一日二回の食事が運ばれています）。人間はそんなに長生きできないでしょ。というのが私たちの常識ですが、そこで留まらず思索を進めて行くと、そもそも「死」は何をもって「死」とされるのかという深い問いにたどり着きます。

死とはいったい何なのでしょう。心臓が鼓動をやめた状態でしょうか。脳が機能していないことでしょうか。そして、身体が停止したあと私たちはどのような存在になるのでしょうか。死について人類は様々な考えを巡らせてきましたが、その答えはいまだ明確になってはいません。

いずれにしても、今この瞬間にもお大師さまに勇気づけられ、助けられている人々がいることを想像すると、私は少なくとも肉体の消滅と死はイコールではないと考えてしまいます。

皆さんはどう思われますか？よろしければご家族やご友人と考えてみてください。



稚児大師（長谷寺所蔵）

私たちが葬儀を行う理由

新型コロナウイルスの影響もあり、社会の変化がいっそう加速しています。それは「葬儀」という人生最後の一大行事においても例外ではありません。そんな風潮を受けて先日の「法話カフェ」（2022年より始まった対話型の法話会）では「私たちが葬儀を行う理由」をテーマに話し合いました。

「葬儀について」法話カフェ参加者のコメントを一部紹介します。

- ◇ 悲しい、寂しい気持ちになった
- ◇ 故人に対する感謝、ねぎらいの気持ちを持った
- ◇ 故人に対し後悔を覚えた
- ◇ けじめをつけることができた
- ◇ 自分のお葬式には誰が来てくれるのだろうと考えた
- ◇ 自分自身の葬儀を機に自分を忘れてもらいたい
- ◇ 自分自身の葬儀を機に自分を思い出してほしい
- ◇ 弔問者に対しありがたい気持ちになった
- ◇ 神のもとへ行けるので喜ばしいこと（キリスト教徒の方）

これらを含む対話のなかで、葬儀の意義は、

- ① 故人の弔い
- ② 遺族、近親者の悲嘆の軽減（グリーフケア）
- ③ 親類縁者、地域の絆の強化
- ④ 「死」を身近に感じることでできる場

に大別できるのではと考えました。

死が災いの結果とも捉えられていた時代、葬儀は穢れを祓う機能をもっていたり、家長が亡くなれば次代への継承の儀式という側面ももっていましたが、現代ではその要素はかなり薄まっているようです。次号では真言宗の葬儀に焦点をあてもう少し詳しく考えたいと思います。

「るり光」152号、153号、156号の「老僧のつぶやき」でも葬儀の意義がより具体的に語られています。興味のおありの方はそちらもあわせてお読みください。この記事をご所望の方はお気軽にご連絡を。またホームページからも閲覧できます。「北田山宝泉寺」で検索してください。

♪ご詠歌コンサートのご案内♪

住職も登壇する「大師生誕1250年記念ご詠歌コンサート」が熊谷市で開催されます。ご詠歌を中心に声明、太鼓の演奏等盛り沢山の内容となっております。

どなたでもご参加できますので興味がおりの方は寶泉寺までお問い合わせを。

日時：令和5年4月12日

13時30分開演

会場：熊谷市立文化センター

参加費：無料

締め切り：令和5年1月末日

法話カフェのお誘い

住職の短い法話のあとその内容について話し合う対話型の法話会です。話を聞くだけでも問題ございません。和気あいあいとお茶を飲みながら楽しい時間を過ごします。

日時：令和5年（原則月末の休日）

1月29日 2月26日 3月26日

13時30分～15時ぐらいまで

会場：寶泉寺り洞 or 本堂

※初めて参加の方は事前にご一報ください。

老僧のつぶやき ①6

順番待ちした図書館の本、『仏教の大東亜戦争』を戦争勃発の月に読みました。著者の鵜飼秀徳氏は浄土宗の僧侶でジャーナリスト、大学で教鞭を執る多才な人です。

不殺生を大きな眼目に据える宗教界や聖職者が国家の戦争体制にのみこまれ、さらに加担していく様はすでに多くの批判や評論で見聞きしているところですし、本書でも細かに取り上げられています。

今回は小僧(しょうそう)が初めて知ることになったことについて記します。戦中物資不足で全国民に供出を求められたものに金属があり、特にお寺は仏像や仏具、梵鐘など多くの有用な金属をかかえていました。武器や弾薬のために多くの寺院では仏具に赤いたすきを掛けられて、あたかも出征兵士を送り出すかのようにお寺を出たそうです。重りがないと鐘楼堂がもたないため、代わりにコンクリートで作られた梵鐘がかけられたものもありました。ご住職や檀信徒の心痛が浮かんできます。

実は小僧が生まれ育ったお寺も鐘のないお堂があり、四方にワイヤーがかけられて倒壊を防いでいたものでした。本堂の香炉や大きな花瓶はセトモノでした。今思えば戦後生まれの小僧にも戦争の痛々しさが呼び起こされる本でした。

「檀信徒のおつとめを読む」はおやすみします。



第37回 元旦お経の会

日時：1月1日 午前0時と午前9時の2回
会場：寶泉寺 本堂（直接本堂正面からお入りください）



あしなが育英会寄付報告

今年も皆さまからお預かりしているお布施より「189,000 円」をあしなが育英会に寄付いたしました。長引くコロナ禍や物価高を背景に同会の奨学生は過去最多になり、申請者も増加中とのことでした。

年 回 表

令和五年

一 周 忌	令 和	4 年
三 回 忌	令 和	3 年
七 回 忌	平 成	2 9 年
十三回 忌	平 成	2 3 年
十七回 忌	平 成	1 9 年
二十三回 忌	平 成	1 3 年
二十七回 忌	平 成	9 年
三十三回 忌	平 成	3 年



兎は跳ねる姿から、飛躍、向上を象徴するとか。また景気が好転、回復と言われるそうです。

誰もがコロナ禍に苦しんだ3年、ウサギにちなんで一足飛びに抜け出したい思いです。

編 集 後 記

- 2022 年 10 月トルコでサンタクロースのモデルとなった聖ニコラウスのお墓が発見されたそう。かの聖者の思いはクリスマスという概念となって今も生き続け、同様に大師の誓願も色あせることはない。
- 2023 年 5 月 10～12 日はお大師様を訪ね、高野山と長谷寺へ団体参拝の予定です。申込用紙は 2023 年初頭にお配りします。（了）
- 小僧の生まれ育った寺では昭和 43 年、明治 100 年を記念して梵鐘が再鑄された。鐘の「出征」を見送った師僧にとっての悲願達成でもあったことを生活の傍らで感じていた。小学校校歌を口ずさんでいる「♪ 平和の鐘の鳴る村の明るくすんだ・・・♪」
- 寶泉寺ご本尊薬師如来のご加護あらんことを切に切にお祈り申し上げます。

Dec. 20. 2021 (琴)